

平成28年度 第3回豊橋市図書館協議会 会議要録

日時	平成29年2月15日（水） 13:30～14:30
場所	豊橋市中央図書館 会議室
委員	出席定数12名 うち10名出席
事務局	豊橋市教育委員会教育部図書館7名 都市計画部まちなか図書館整備推進室1名
議事	議題 (1) 平成29年度図書館予算概要について (2) まちなか図書館（仮称）について (3) その他
配布資料	・平成29年度図書館予算概要について ・読書通帳の導入 ・英語多読の推進 ・羽田八幡宮文庫資料保存管理計画の策定 ・まちなか図書館（仮称）について

<議事概要>

(1) 平成29年度図書館予算概要について

【重点事業1】読書通帳の導入

【重点事業2】英語多読の推進

【重点事業3】羽田八幡宮文庫資料保存管理計画の策定

事務局より、配布資料に基づき説明。各委員より以下の意見・質問があった。

<質疑応答>

【委員】

古書などの機会を逸すると手に入らない貴重な資料の収集については、これらの費用（予算）とは別に例えば予備費のような形で対応ができるようになっているのか、希少本の購入をどのようにおこなっているのか。

(事務局)

予備費という形ではなく、予算のうち、図書館全体の資料購入費の中で対応する形を今までもとってきている。今後も同様にしていきたい。

【委員】

英語多読の推進について来年度は講演会を1回行うのみなのか。その後それを足掛か

りに図書館の方で継続的に何か考えているのか。

(事務局)

今回は講演会の1回のみと考えているが、なるべく地域のリーダー、学校の先生等に声をかけてそのような方に仕組みを知ってもらいさらに広げていただくようなことを考えている。

多読の先進都市では校長をされた方がリーダー役になってサークル活動のような形で継続していくというケースが多い。

【委員】

この講演会では大人が対象となっているのか。講座の内容もある程度ポイントを絞っていかないと趣旨がぼやけてしまうのでは。

(事務局)

英語を始めるにあたっては大人も小人も関係ないので講座については対象を狭めたくないと考えている。ただリーダーの養成という面を考えると大人が多くなってしまわないかと。

【委員】

この講演会の趣旨としてリーダーの養成ということであれば募集の際に明記してそのような人を集めるべきであるし、中学、高校全部に通知を出すとか考えているのか。

(事務局)

講演会をするにあたっては誰を対象とし、どういうものをしていくのかということが議論になっていて、小人から大人まで誰でもOKとした場合、講演者がどのような筋立てをしていくのかということが問題になるため、全ての人を対象としつつも、今回は事業の内容を理解している方、使ってみたいという方、教育に携わっている方に声をかけることを考えている。講演会自体についてはこれから練り込んでいくので、そうなればはっきりした具体的なものが見せることができるが、今はそのような段階である。

【委員】

読書通帳の説明の中でダウンロードするとはどのような仕組みなのか。

(事務局)

図書館のホームページを開いて、読書通帳の項目を作成し、そこから印刷できるようにする。今回覧しているように大人版と小人版があり、A4サイズで2枚印刷して自分で作ることができるようになっており、誰でも使うことができる形のものである。

【委員】

自分で印刷するものについてはわかったが、実際に印刷業者で印刷して学校の方から配るものもあるのか。

（事務局）

学校から配付していただくのは、尾張旭市や江南市のように冊子になっているもので、対象は小学4年生から6年生のみ。それ以外の方はダウンロード版で対応してもらおう。

大人版については自分で何枚も印刷して綴じてもらえば、欄も細くなっているのでたくさん書けるようになっている。小人版は通帳一冊につき20冊分書けるが、それを5冊集めると図書館から何かプレゼントをしようかと考えている。

【委員】

これは大人も関係のある事業ということか。

（事務局）

事業自体は小学校4年生から6年生を対象として、それに伴って大人まで取り込んでいく形になっている。

【委員】

子どもが家族とあわせて一気に30冊借りていく人がいるが、そのような借り方をし
て予算が足りるのか。

（事務局）

小人版の通帳5冊分は100冊分になる。基本は手書きで自分で読んだ本を書いてもら
うので、たとえ家族で借りていた場合でも、自分の読んだ本だけを書いてもらう。貸
出中のものだけレシートでも出せるが、自分の読んだものだけ切って貼ってもらう。

【委員】

市民館の分室で借りた人は自分で書くのか。

（事務局）

図書館で借りた本は、シールが発行できるが、その他の本は発行ができないため、書
いてもらう形になる。家の本や友達に借りた本を書いてもいいが、雑誌やコミックは除
いてもらう。

【委員】

そうすると市民館の利用者は中央図書館まで行ってもらう形になるのか。（プレゼン
の受け取り等）

(事務局)

そうです。中央図書館か向山図書館か大清水図書館に。

【委員】

そこが不便かと思うので、平等に簡単にできる方法を考えてもらいたい。

【委員】

プレゼントとしてはどんなものを考えているのか。

(事務局)

予算的にはあまりないので、手作りのしおりなどを考えている。小学4年生から6年生まではもう少し良いものをプレゼントしたいと考えているが、何か良い案があったらご意見を伺いたい。

【委員】

読み聞かせのスタンプを10個集めると鉛筆がもらえて、結構楽しみにして、励みになっている。

【委員】

特製の鉛筆ですか。市販の鉛筆ですか。

(事務局)

トヨッキーの絵柄の鉛筆です。基本的に今あるもので対応しており、特別に作ることはできない。

【委員】

家庭での読書も大事なので、「家読」という言葉があるがそのようなことも広めて、親御さんも一緒に読むことも行っていくと良い。低学年では通帳をうまく書けない子もいると思うので、そういうところで親子で読書するということを勧めていくともっと貸出が増えるのではないか。

【委員】

重点事業3で羽田八幡宮文庫の悉皆調査を行うとしているが、既に目録を作成していると思うが、その時は悉皆調査ではなかったのか。

(事務局)

豊橋の図書館で所蔵するものの目録を作成した。

【委員】

目録の後ろの方に、例えば刈谷の岩瀬文庫の中のものというように簡単に本のタイトルぐらいは載っていたかと思うのだが。

(事務局)

今回は市民の財産として、今後も残していくべき国レベルの貴重なものであることを認知してもらうための手始めとして、今分かるものであれば全て把握しておいて、保存の計画を進めていこうと考えている。

【委員】

恐らく羽田八幡宮文庫は19世紀半ば頃にできた文庫で、近世でも一番終わりの時期のものである。それから考えるとそれ以前の貴重な文献は多分山ほどあるのでは。羽田八幡宮文庫は、文庫としてこのような形でできたのは全国的にも稀有な例であって、これを最初にできた図書館ということでやっていくのも良いかと思うが、文献の調査ということから考えると、こちらにも羽田八幡宮文庫にも入っていないような文献を他にも沢山所蔵していると思うが、そういうものの中にも非常に貴重なものが幾らもあるのではないか。もし図書館の事業として行うなら、羽田八幡宮文庫にも入っていないような文献についてもきちんとした悉皆調査を行うべきではないか。

(2) まちなか図書館（仮称）について

事務局より、配布資料に基づき説明。各委員より以下の意見・質問があった。

<質疑応答>

【委員】

ここに出ている内容、例えばワークショップ、音楽を聴きながら読書をする等がまちなか図書館のイメージと考えて良いのか。

(事務局)

音楽を聴きながらというわけではないが、本だけではなく、まちなかにはプラットや本ビルの中にもオリエント楽器があるため、まちなかで活動している方で本と絡めた企画を考えたときに音楽や生バンドの演奏がイメージにあった。読書と絡めたとき村上春樹の影響力が大きく、音楽も使われていると考えたため行ったものであり、これは一つの例であり、まだ無限にこのようなものはある。これらの事業を我々が考えているが、市民の方に提案してもらい、できれば運営にも参加していただくようなことも考えていきたい。

良い見本がこれまで図書館でも読み聞かせのボランティアが最初の枠で集まって、自主的に市民館等で活動しているということもあり、そのようなものを目指していきたい。

桜丘高校の演劇部に朗読劇をやっていたが、先生も喜んでおられて、人前でこ

ういうことができる場所があると嬉しい。ただ劇場で行うと劇に興味のある人しか来ないので、劇に特に興味のない人がたまたま通りがかってみてくれるような場所があると嬉しいと言ってみえた。

【委員】

よく日本では箱をつくるのは得意だがそれをどう活用していくのかが苦手だといわれる。だからプロデューサーというものが大事になってくると思う。ボランティアの方々が色んな分野から集まってきて市民目線で意見を交換していくと、決まりきったお役所的な発想でなくて、市民の立場に立った図書館づくりの方向が見えてくる。そのようなことが大事ではないかと思う。

(3) その他

事務局より、配布資料に基づき説明。各委員より以下の意見・質問があった。

<質疑応答>

【委員】

(イベント等の) 宣伝はどのようにやっているのか。

(事務局)

広報とよはしに載せることと、館内ではチラシを配布している。またホームページに掲載している。